

# 第6学年 理科・情報

- 1 研究主題 「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」  
ー 学び合い認め合い高め合う学習活動を目指して ー

## 2 育てたい力

### ◆表現力

- 伝えたい内容や相手に応じて表現方法を選択し、資料を活用するなどして、自分の思いや考えを的確に表現することができる。
- 思いやりの気持ちを大切にし、相手の立場を考えて表現することができる。

### ◆コミュニケーション力

- 自分の考えを持って相手の話を聞き、質問や意見、感想を伝え合うことができる。
- 相手の話を聞いてよりよい考え方や新しい考え方に気づき、互いに向上しようとすることができる。

## 3 研究の視点と手だて

### 〔視点1〕 問題意識や自分の考えを明確に持って話し合う場の設定の工夫

- 疑問をもとに実験や観察の結果から導き出される考察を重視し、グループ内や全体の場で発表する機会を意図的に設定して表現力を高め、学び合いを深める。
- 児童にとって身近で興味のある話題を取り上げ、自分の考えを明確に持ってディベートに参加できるようにし、聞く力・話す力・話し合う力を高める。

### 〔視点2〕 情報活用能力の育成を意図した学習活動の工夫

- デジタルコンテンツや図書資料、新聞記事等から必要な情報を目的に合わせて収集・選択し、伝えたい内容や相手に応じて表現方法を選択し、自分の思いや考えを的確に表現することができる。ようにする。
- 情報モラルの学習を通して情報発信の責任についての理解を深めさせ、相手の立場を考えた表現ができるようにする。
- 複数の異なる意見を情報発信者の意図を考えながら聞き、情報の正誤や善悪を的確に判断して他者とコミュニケーションできるようにする。

## 第6学年理科・情報 成果と課題

### 〔視点1〕 問題意識や自分の考えを明確に持って話し合う場の設定の工夫

- 教科担任として、6学年3クラスの理科を指導してきた。問題解決の過程を重視し、「疑問→予想→実験・観察→結果→考察」の流れをパターン化して繰り返してきたことで、問題意識や自分の考えを明確に持って授業に臨むようになった。特に、実験や観察の結果から導き出される考察を重視し、グループ内や全体の場で発表する機会を意図的に設定したことで、友達のよい考えをノートにメモする児童が増えるなど、学び合いを深めることができた。
  
- 6年3組で、ディベートを取り入れた情報モラルの授業を行った。「小学生に携帯電話は必要である」という論題は児童にとって身近で興味があり、肯定・否定のどちらかの考えを明確に持ってディベートに参加できた。ディベーターは、新聞記事を主な論拠とし、劇を取り入れるなど説得力のある発表ができた。また、ディベーター以外の児童は、判定するためにしっかり聞くことができ、さらにディベート後に自分の考えを明確にしてワークシートに書くことができた。
  
- ▲理科におけるグループ内の話し合いでは、児童各自が結果（事実）を基にいかに関心を深めることができたかにより、話し合いの質が変わってくる。したがって、理科においては、児童の科学的思考力を高めていくことが表現力を向上させていくことにつながる。また、グループのメンバーの組み合わせによっても、話し合いの活発度が違う。児童同士のコミュニケーション力を高めることが、確かな学力の向上にもつながることを、改めて実感した。

### 〔視点2〕 情報活用能力の育成を意図した学習活動の工夫

- 6年3組のディベートでは、新聞記事データベースなどから論拠となる必要な情報を収集・選択し、判定者を説得するために表現方法を考えて、自分の考えを的確に表現することができた。このように、児童が主体的に情報を活用してプレゼン力を高めていけるという面で、ディベートはとても効果的であった。また、情報モラルの学習を通して情報発信の責任についての理解を深めさせ、思いやりの気持ちを大切に、相手の立場を考えた表現の大切さに気付かせることができた。
  
- ▲複数の異なる意見を情報発信者の意図を考えながら聞き、情報の正誤や善悪を的確に判断して他者とコミュニケーションできるようにするために、ディベート以外の学習活動を工夫していきたい。さらに、メディアリテラシーの向上やICTのよりよい活用を図ることで表現力・コミュニケーション力を高めていくことを今後の課題としたい。